

新入試対策算国講習

《算数:すべての受験につながる、PISA型の算数の力をのばす》

小学校の算数は、分数・小数の計算や割合などの単元ごとの演習にとどまることがあります。そのため、複数の単元を融合した問題にふれ、使いこなす経験が少ないことが、中学校や高校の数学で苦手意識をもつ生徒が増える原因になっています。

中学校以降の数学では、条件を整理する力や適する解を導き出す力が必要となります。この講習では、およそ5時間の集中学習でそれらの力を身につけていきます。さらに小5・6生は、中学入学以降でも生かせるレベルの高い問題までトライしていきます。

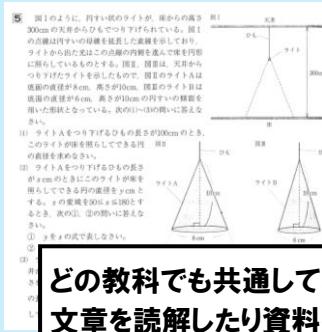
《国語: うすいオリジナルの問題に挑戦し、読解力を養う》

文章を正しく理解するのは、大人でも難しいことです。小学生にとっても、非常に高いハードルであることにはまちがいありません。

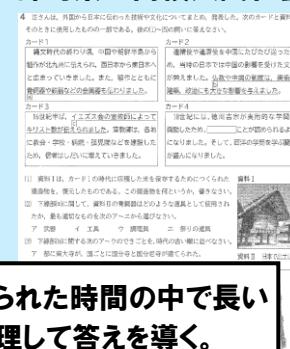
だからこそ、長い夏休みを利用して、何度も文章を読み返し、線を引き、大事なところを見抜き、それらを正しい日本語でまとめ直す問題にトライしてみてください。すべての教科の土台となる読解力を今から身につけていきましょう。

新しい高校入試、大学入試では高いレベルの教科学力が必要です。

群馬県立高校入試数学



群馬県立高校入試社会



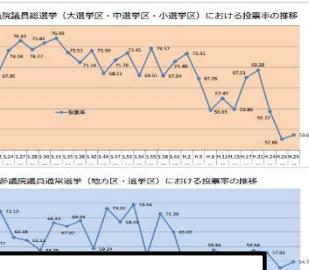
どの教科でも共通して、限られた時間の中で長い文章を読解したり資料を整理して答えを導く。

東京大学 法学部 推薦入試課題

総務省の発表によると、2010年の参議院議員選挙(選舉区)の投票率は48.80%であり、過去最高だった。1990年の参議院選挙の44.92%に次ぐ低い値でした。18歳と19歳を含む若手の投票率は31.33%。(拙論によると選舉区では)、企体の投票率はさらに下回りました。参考のため、近年日本の全国選舉における投票率の推移一目でご見なさい。

これに対し、オーストラリアの参議院議員選挙は約90%を超過する投票率(投票者／選挙人／選舉人／選舉権者)となっています。(高)投票率が生じる一つの要因は、その特徴的な選挙制度になります。投票の公的義務として強制する投票(強制投票制 compulsory voting)がそれがです。この制度の歴史は古く、1915年にケンタッキー州の州議会選挙に初めて導入され、1924年には連邦議会選挙でも導入されました。以後、今に至るまで高い投票率が維持されています。

現在、オーストラリアの義務的投票制はおなじみのものとなっています。18才以上のすべての国民に、2つの公的義務を負います。まずは1つに、選舉人名簿への登録義務が付かれています。本と写真入りの運転証明書に選舉人として自己の届け出がなければ投票できないことになります(2019年 5月の連邦議会選挙における脱落率は96.88%)。第2に、投票の義務です。投票の義務され、正規かつ合法の方法によって(選舉会議等の)投票に用行かなかった場合は、20豪ドル(約1500円)の罰金が科されます。他方、遅め投票の権利、投票の秘密の権利、投票の不正の権利など、選舉権者としての権利が保障されています。



文章読解をして問題の要点を把握したうえで論理的に文章を記述する力が求められている。

夏のテーマはコレ!!

算数

文章を読解し、 条件を整理する



国語

○ 読解力をつける



小4~6年生
3日間
12,100円
(税込み)

※日程の詳細については
申込書をご覧ください。